

# 第 42 回日本分子生物学会年会 参加報告

医学系部門 生命科学実験班 尾崎 佑子

## 1. はじめに (目的等)

分子生物学は日々進歩しており、私が技術支援を行っている分子生物学的研究の質を向上させるためには、新たな知識や技術が必要となる。そこで、他大学や他機関の研究者や学生との情報交換や企業からの情報収集を通して新たな知識を習得することを目的として、本学会に参加した。

## 2. 期間・場所

期間 : 2019年12月3日(火) ~ 12月6日(金)

会場 : 福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル&ホール・マリンメッセ福岡 (福岡県福岡市)

## 3. 参加者等

日本分子生物学会会員、非会員及び学生等 約 7000 名

## 4. 研修内容

生命科学に関する様々な分野が集まった大規模な学会で、演題数が多かったため(シンポジウム、ワークショップ、フォーラム等)、自身の業務に関連し、また今後業務に活かせそうな演題を選択して聴講した。また、ポスター発表では主に業務に関連しそうな演題を見て回った。さらに、企業ブースに立ち寄り、企業が開催するセミナーに参加することで最新の技術や知識の取得、情報収集を行った。

## 5. まとめと感想

今回の学会参加では、自分の専門分野以外にも興味を持ち、広い視野で分子生物学を学ぶことができたため、大変有意義な時間を過ごすことができた。

1日目の「知っておきたい研究ツールとしての抗体の話～抗体使用の基礎から最先端まで」では抗体の選び方や使い方だけでなく、抗体を使う前のサンプルの準備といった私が業務支援を行っている組織標本作製(包埋や切片作製)を行うにあたっての注意点などを学ぶことができた。当施設では免疫染色は行っていないため、未染スライドを返却する際には、きれいに薄切できていれば良しとしていたが、薄切以外にも染まり方に影響する試薬の交換時期に留意するなど、よりきれいで正確な標本返却を心掛けることの必要性をあらためて学んだ。

また、「PCR 実験をきっちり理解するための基礎講座」を聴講したが、PCR の歴史など、普段講習会等であまり触れられないような内容もあり、大変興味深く、勉強になった。

今後は本学会で習得した知識や情報を活かし、効率的で質のよい技術支援ができるよう、さらに自己研鑽を積んでいきたい。